

「明るく元気ないわき市」の創造を目指して

「ふるさと」いわきの力強い復興と創生

平成二十八年新春市長記者会見を一月五日、市役所で行いました。清水敏男市長は、今年の市政運営について年頭所感を述べ、復興の先の「いき」を見据えた、今後のまちづくりの考え方を明らかにしました。

ふるさと「いわきの力強い復興の実現

○早期生活再建に向けた取り組み

▼震災復興土地区画整理事業など
震災復興土地区画整理事業については、順次宅地の引き渡しを進めており、来年十二月までに全ての工事を完了を目指すほか、津波被災地区の復興グラウンドデザインの実現化に、地域と協働で取り組みます。
また、幹線道路を優先してきた市道の再生は、今後、生活道路の再生を重点的に実施していきます。

新春市長記者会見で、清水市長は、復興事業計画の各種取り組みを着実に進めた結果、市復興ビジョンに掲げる復興期の最終年度となる平成二十七年年度において、災害公営住宅などハード面での基盤は整備されつつあり「医・職・住」への対応についても、課題解決に向けて、一定の道筋が付けられたと報告しました。
その上で、今後の市政運営の基本的な考え方については、復興の先の「いき」を見据え、急激に進行する人口減少や少子・高齢化に対応し、広域多核の都市構造を踏まえたまちづく

りや、地域の活力を維持するための取り組みの構築が重要であると述べました。
また、本年は、市制施行五十周年の節目の年に当たることから、現在策定などを進めている、新・市総合計画改定後期基本計画やいわき創生総合戦略に基づき、引き続き「ふるさと」いわきの力強い復興の実現」と「更なる五十年に向けた魅力あふれるいわきの創生」に全力で取り組むとともに「明るく元気ないわきの発信」を進め、復興の総仕上げと地域創生へ、力強く踏み出す年としていくことを表明しました。



今年度の市政運営について年頭所感を述べる清水市長

▼原子力災害への対応など
原子力災害時の広域避難に関しては、茨城県などと避難先の調整を進め、避難計画を策定するほか、避難体制の充実を図るため、原子力防災訓練を引き続き実施するとともに、除染実施計画に基づく住宅除染の着実な推進に努めていきます。
また、地域の防災力の向上を図るため、引き続き防災士の養成に取り組むとともに、震災の記憶や教訓を風化させず、後世に伝えるため、震災メモリアルの中核拠点施設の整備について、地域の意見を聞きながら、さらに検討していきます。



1,000人を達成したいわき野菜アンバサダー

○地域経済の復興
▼農林水産業
「いわき野菜アンバサダー」セミナーの開催や、水産物地域ブランド「常磐もの」のPR事業により、いわき産農林水産物が持つ魅力やおいしさを発信していきます。

また、PPPに関する国の動向への的確な対応に加え、力強い農林水産業の実現と震災からの復興に向けて、市農業・農村振興基本

計画や森林・林業・木材産業振興プランを策定し、農業振興の振興に向けたさまざまな施策の着実な推進や、新設した小名浜港の魚市場等を足掛かりとした水産業の復活など、本市の第一次産業の持続的発展に努めていきます。

▼商工業
中小企業の振興を図るための条例を制定し、地域経済の活性化を図っていきます。
また、防災集団移転促進事業を実施した地区においては、なりわいやコミュニティの再生を目的に、雇



「超高速！参勤交代リターンズ」の撮影

用の創出や地域振興を図るため、企業誘致を推進していきます。
▼観光業
いわきサンシャイン博を開催し、一年を通して楽しい「いわき」を市内外に発信するほか、いわき花火大会をグレードアップするなど、シンボルフリーズ「いわき ステキ 半世紀」のもと「五十周年、五十の記念事業」と銘打ち、さまざまな記念事業を展開し、本市五十周年の祝いと復興への着実な歩みを、全世界に発信していきます。
また、湯長谷藩主・内藤

更なる五十年に向けた魅力あふれるいわきの創生

○ひとづくり

地域を支え、国内外で活躍する「人財」を育成するため、子育て支援の充実と教育先進都市の実現を目指します。

▼子育て支援の充実

女性が働きやすく子育てしやすい、環境整備に取り組み企業を表彰する制度を創設するとともに、妊娠前から子育て期まで、切れ目のない総合的な支援の具現化に向けた取り組みを進めます。

また、子育てコンシェルジュや放課後児童クラブなどの充実を図ります。

▼教育先進都市の実現

本市の教育、学術および文化の振興に関する指針となる教育大綱を策定し、学



子育てを支援する子育てコンシェルジュ

力の向上をはじめ、子どもたちの心と体を育むための「豊かな土壌づくり」を進めるほか、学校図書館司書の全小・中学校配置に向けて人員を拡充します。
加えて、体験型経済教育施設「エリム」における学習内容の充実を図るとともに、生徒会長サミットやいわき志塾など、切れ目のないキャリア教育を充実していきます。
さらに、地域とともにある学校づくりを進めるため、学校・家庭・地域が一体となり、より良い教育環境を実現するコミュニティ・スクールを導入していきます。

○まちづくり
〈魅力あふれる地域づくり〉

▼市街地のにぎわい創出
三月に、いわき駅北口交通広場が全面供用開始となる同駅周辺地区では、都市機能の増進や経済活力の向上、文化・交流機能のさらなる充実を図るため、中心市街地活性化基本計画を策定するとともに、並木通りの市街地再開発事業の検討や、磐城平城本丸跡地の公有化の検討に着手します。小名浜地区では、開港六



3月に供用開始予定のいわき駅北口交通広場

十周年を迎える小名浜港でさまざまな事業を展開し、通年でにぎわいを創出するとともに、小名浜港背後地の整備を着実に推進していきます。

また、湯本地区では、にぎわいの再生を図るため、地区まちづくり計画の改定に向け、地域との協議を進めていきます。

▼中山間地域の活性化
人口減少や少子・高齢化が課題となっている中山間地域については、地域振興課を設置し、地域おこし協



地域おこし協力隊による遠野和紙の制作技術継承

▼国内外での連携・交流の強化
昨年は、新潟市や民間団体などと、危機発生時における応援協定の締結や、内藤家をご縁とする四市で都市交流会議を行いました。本年十月には、中核市の市長が一堂に会する、中核市サミットが開催されます。

さらに四月には、太平洋・島サミットに続く国際会議として、第一回福島第一廃炉国際フォーラムが開催されるほか、姉妹都市を締結しているタウンズビル市とは締結二十五周年、友好協定を締結しているハワイ州カウアイ郡とは締結五周年の節目の年を迎えます。

こうした機会を通して、国内外でのさまざまな連携・交流を深め、本市の安全性や復興の姿を発信していきます。

▼東京オリンピック・パラリンピックを見据えた取り組み
七月下旬から開催される第三回アンダー15野球ワールドカップを成功させ、新設する新舞子多目的運動場やフットボール場などを活

用しながら、国内外の代表チームなどの合宿の誘致に取り組み、東京オリンピック・パラリンピックの競技や合宿の誘致につなげていきます。

新たに供用開始する
公共施設

○地域防災交流センター久之浜・大久ふれあい館

東日本大震災の津波により甚大な被害が生じた、久之浜地区の津波防衛策の一つとして、国の東日本大震災復興交付金を活用し、久之浜・大久支所が持つ災害時の防災拠点機能と、久之浜公民館が持つまちづくり活動拠点機能を、一体化・



3月に供用開始予定の地域防災交流センター久之浜・大久ふれあい館

力隊や集落支援員の活動を充実するとともに、廃校や既存施設の有効活用など、魅力ある地域資源の磨き上げに取り組み、地域の振興・活性化に向けた検討を進めていきます。

▼文化・スポーツ施策を生かしたまちづくりなど
文化・スポーツ施策を教育委員会から市長部局に移管することに併せ、組織体制を強化し、他施策と連携したまちづくりを推進する

ほか、プロモーション活動の強化に向けた官民連携による検討や、外国人旅行者の受け入れによるインバウンド観光の充実を図るため、公共標識の多言語化に向けた検討に着手します。

▼安全・安心に生活できる社会の構築
地域包括ケアシステムの構築など
医療・介護・介護予防・住まい・生活支援を一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の構築に積極的

に取り組みほか、認知症の方とその家族を地域で支える認知症カフェの取り組みを充実させ、住み慣れた地

集約化した地域防災交流施設として、三月に供用を開始する予定です。

○こども元気センター

子育て世帯が安心して定住できる環境を整え、地域の復興の促進を図るため、国の福島定住等緊急支援交付金を活用し、子育て支援拠点機能と屋内運動施設機能を併せ持つ施設として、四月に供用開始する予定です。

同施設は、小学生が放課後などに集まり学習等ができる機能や、乳幼児とその家族を支援する機能を備え、屋内運動場のほか、屋外には、はだして遊べるじゃぶじゃぶ池などを整備します。



4月に供用開始予定のこども元気センター（植田町・後宿公園内）

域で暮らし続けられるようさらなる安全・安心の確保に努めていきます。

▼医師不足の解消に向けて
医師の招へいに向けた取り組みとして、福島県立医科大学との連携により実施している「いわき地域医療セミナー」を充実させ、より積極的に医学生の受け入れを図っていきます。

○しごとづくり

▼産業振興策
風力・太陽光・バイオマスなどの再生可能エネルギー関連産業の振興をはじめ、成長産業である医療・バッテリー関連産業や、新しい産業分野である原発の廃炉やロボット産業の集積と振興に取り組むなど、本市の地域特性や既存の産業ポテンシャルを生かした産業政策を推進していきます。

▼イノベーション・コースト構想
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構やいわき商工会議所と連携し、人材育成の基盤を構築しているところであり、関係機関とのさらなる連携強化に努め



浮体式洋上風力発電の実証研究

浜通り地域の復興に向け、同構想の推進を支えるベイス・キャンプとしての役割を積極的に果たしていただきます。

明るく元氣ないわきの発信

○他都市との連携・交流
▼双葉郡八町村との連携
本市に避難された方々が市民の皆さんと自然な交流を図ることができるよう、コミュニティ交流広場や鹿島公民館の講堂を整備し、共生に向けた環境づくりに取り組むほか、これまで以上に連携し、震災後の状況の変化を踏まえながら、浜通り地域の原子力災害からの復興・創生に向け取り組んでいきます。

平成28年新春市民交歓会を開催

新春市民交歓会を1月5日、パレスいわやで開催しました。
今年の新春市民交歓会には、市民の皆さんや市内の事業所の方々など約550人が参加しました。同交歓会では、県農土木工業連合会いわき支部による「木やり」の披露や、鏡開きなどが行われたほか、いわき湯本温泉湯の華会によるステージ「着物deフラ」が披露され、会場から大きな拍手を受けていました。
参加した皆さんは、今年一年のお互いの健勝とさらなる飛躍、そして本市の発展を祈念していました。

